

## 国府台女子学院中学部

### 算数

出題形式はここ数年同じです。易しい問題を解くときもていねいに計算するか、見直しの時間を取るなどして、正確に答えを求められるようにしてください。また、特殊算の代表的なものは習得してください。解答の経過を見る問題を必ず出題するので、解法を簡潔に説明する練習をしておくとい良いでしょう。

### 国語

推薦入試は小問集合のみですが、400字程度の短い文章からの出題があります。第1回、第2回入試は長文問題1題（説明文か文学的文章）と小問集合となります。知識を問う小問はどの入試でも比重が高いため、よく勉強しておきましょう。漢字・熟語、慣用句・ことわざ、正しい文章表現、敬語、短文作りなどに加え、「ヒントに沿って考える力」を見る問題も出題する予定です。

### 理科

第1回、第2回入試は前年までの大問4題（物理・化学・生物・地学の4分野）から、大問5題（小問集合・物理・化学・生物・地学）になります。小問集合は分野を問わず出題しますが、特別な対策は必要ないと思います。毎年、計算問題も出題していますが、焦らず、じっくり問題を読んで考えてください。

### 社会

出題傾向は例年並みです。時事的な問題も出題しますので、新聞・テレビのニュースなどに興味・関心を持つようにしてください。また、世界にも目を配り、日本各地の気候・風土や、各種産業、統計資料などもよく勉強しておいてください。

## 聖徳大学附属女子中学校

### 算数

小問 20 問、計算問題 4 問、基本的知識を問う穴埋め問題 5 問のほかに、平面図形、立体図形、割合と比、速さ、特殊算などの応用問題となっています。出題数、内容、形式は例年とほぼ同じです。計算問題から応用問題まで、数学的な工夫や思考力を必要とする問題を増やす傾向にあります。算数の基礎知識、確実な計算力を求める問題を多く出題しており、日ごろの学習習慣に基づく数学的解法技能と思考力を求める問題を出題しています。極端に難しいものや、複雑なものは出題しませんが、基礎力、計算力および応用力をしっかり身につけ、模擬試験で実戦経験を積んでください。

### 国語

大問は 5 題あります。順に 1 題は漢字の読み書き問題、3 題は総合的な国語の知識を問う問題、そしてもう 1 題は、文章読解問題です。漢字の読み書き問題は、小学校配当漢字の中にある、日常的に使用される基本的な漢字から出題します。総合的な国語の知識を問う問題は、文法、ことわざ、慣用句、四字熟語、漢字の成り立ち、敬語など幅広く出題します。文章読解では、論説文や小説などから出題します。設問内容は、理由説明、心情説明、脱文挿入、文法問題などオーソドックスなものが多いです。日ごろの読書習慣を土台にして、語彙力、ことばの基礎知識、読解力、表現力を身につけることを意識しながら、国語の学習に取り組むことを望みます。

### 理科

大問は 4 題です。物理・化学・生物・地学の 4 分野から 3 題、総合問題 1 題を出題します。ただの知識ではなく関連を持たせ、「なぜそうなるのか」と思考する能力が問われます。実験結果から本質を読み取る問題や、思考の過程をたどる問題も出題されています。よって「奇問」を解く能力ではなく、知識を総合して解く能力が要求されます。現象や法則など基本的な知識は極めて重要であり、理解したうえでさらに科学的な判断ができる応用力も身につけるなどして、答えを導き出す訓練をし、理解力を高めるようにするとよいと思われます。

### 社会

大問は 2 題です。地理・歴史・公民（政治・経済・国際）分野の幅広い知識や、全体的な考える力を問う総合問題となっています。また、分野ごとの基本的な知識を問う問題では、地理分野からは日本の風土に関する基本的な知識と、地図やグラフから情報を読み取る力を、歴史分野では日本の歴史の概要とそれぞれの時代の重要な出来事に対する読解力を、公民分野では日本の政治の基本的な仕組みを把握しているかどうかを問う問題となっています。社会科学の基礎的な知識をきちんと理解し、本校の社会科学学習に十分対応できる力が求められます。

## 和洋国府台女子中学校

### 算数

計算・穴埋め一行問題が 5 割程度、文章題・図形・数量問題が 5 割程度の出題です。計算問題の約分忘れは不正解、文章題の場合は部分点もあります。円周率は 3.14 を使う問題を作成しています。

### 国語

目安として、出題の割合は、文学的文章が 4 割、説明的文章が 4 割、韻文（ここ数年は詩）が 2 割となっています。テクニックだけに走らない、ていねいな読解をしましょう。

### 理科

物理・化学分野が 4～5 割、生物・地学分野が 4～5 割、実験器具の扱い方が約 1 割です。グラフや表の読み取りが鍵です。思考力を問う問題もあります。

### 社会

地理・歴史が各 4 割程度、政治と国際社会が 2 割程度の出題です。都道府県や人物名・用語は、教科書の表記が漢字のものについては、正しい漢字で書けるように勉強してください。

## 市川中学校

### 算数

ここ数年、大問 5～6 題、全体の解答数が 15 問程度で、大問 1 は基本的な問題（数・割合と比・面積比など）を扱った小問が数問のセットになっています。近年、フリーハンドで図形やグラフを描かせる問題を出題していますが、コンパス・定規は持ち込めないので注意してください。計算問題では、割り切れないときは分数で答えてください（仮分数で答えても構いません）。今年は空間図形の問題を出して、立体がきちんと把握できているかの力を問います。例年より長めの文章題が出題されるので、何が問われているのかを正確につかみましょう。問題を正確に読み取り、論理的に答えを導き出す力や計算力を確かめたいと思っています。

### 国語

「物語的文章」「説明的文章」「漢字に関する問題」の大問 3 題による構成です。文章の長さは、物語的文章と説明的文章を合わせて約 7000 字程度。文章の難易度は例年あまり変わりません。速く読み速く解き、時間配分に注意することが大切です。出題傾向は 2005 年度以降ほとんど変わっていません。100 字以下の長い記述問題を 3 問ほど出題します。記述問題は答えるべき要素が入っていれば部分点を与えるので、あきらめないでください。2009 年度問題から、漢字を独立させました。今年も文章の中からは漢字問題は出題しません。漢字の問題では「とめ・はね」なども採点します。また、小さ過ぎる字も採点の対象外とします。記述問題の漢字はあまり細かくは見ませんが、明らかな誤字は減点としますので注意してください。

### 理科

例年、「計算問題」と「データを見て、指示に従いながら考察していく問題」が出題されていますが、昨年度からすべての分野から出題されるようになり、計算問題の比率がやや減りました。検定教科書以外の範囲からも出題する可能性があります。基本的な学力で解けるでしょう。記述問題も出題されますが、あまり長文ではなく 2～3 語程度で短くまとめた解答を作ることを心がけてください。

### 社会

歴史 50 点・公民 30 点・地理 20 点の配点です。歴史は「ある国との外交」「戦争」をテーマにした問題、地理は表やグラフを見て答える問題、公民は時事問題が出題されます。選択問題は偶然正解になってしまうということのないように、「当てはまるものをすべて選択しなさい」という形式の問題が出題されます。漢字で答える問題では、漢字が間違っていると不正解になるので注意してください。

## 江戸川学園取手中学校

### 算数

大問は7題。計算だけの問題はなく、文章題で出題します。図形の問題も出題します。コンパス・定規・分度器は必要ありません。解答が合っていれば正解とし、間違っている場合は途中計算も見ます。

### 国語

文章題3題を出題。漢字の書き取りは文章題の中で1割程度の配点で出題します。ことわざ・慣用句・語句の意味なども数問出題します。例年どおり100字要約問題を出題します。文学史の問題は出題しません。

### 理科

4分野から大問8題を出題。実験・観察を表す図・文章・表・グラフを見て解く形式で、基本的には文章をよく読み、じっくりと考えれば解けるレベルです。選択式のほかに、適語記入、計算、作図やグラフなどの問題も出題します。

### 社会

3分野から出題。世界地理は出題しません。しかし、日本と密接な関係にある国については確認してください。歴史は各時代から出題します。日本国憲法の条文もよく見ておきましょう。漢字指定の問題も出題します。

## 芝浦工業大学柏中学校

### 算数

1 番は計算などの基礎力を見る小問、2 番は簡単な文章題や図形の中問、3～5 番は文章題や図形の問題です。5 番は途中式も書かせ、考え方や方法が論理的に伝われば部分点を設定します。

### 国語

漢字問題はパズルのような記号問題が主です。物語的文章は、ここ数年で出題した作家と同じ傾向のものを出題します。過去に出題された作家の出題もあり得ます。説明的文章は新聞の社説から出題します。また、絵や写真を見て情景を説明する文を書く問題も出します。

### 理科

大問は、物理・化学・生物・地学・総合（エネルギーと環境）の 5 題。40 分 75 点。単なる知識だけではなく、思考力・計算力も問います。例年どおり、簡単な記述問題も出題します。

### 社会

大問は、地理・歴史・公民・雑問（時事問題や社会問題、総合問題中心）の 4 題。出題傾向としては、各分野とも記述問題を出題し、部分点を設けます。語句で答える問題の大部分は漢字指定があります。地理では世界の地理を出題しますが、新聞・テレビなどでよく見る項目が中心です。

## 専修大学松戸中学校

### 算数

大問 1 では、計算問題の小問を 4 問出題します。大問 2 では、特殊算、数や図形の基本的な性質を問う問題、単位の変換などの小問を 5 問出題します。大問 3 から 7 までは、グラフを読み取る問題や規則性を見つける問題、図形の問題などの文章題を出題します。小問の数は合計 19 問で、最後の大問 7 は、答えだけでなく、答えを導き出すまでの考え方も解答用紙に書く形式です。ここでは、考え方が途中まで合っている答案については部分点を設定しています。

### 国語

大問を 3 題出題します。大問 1 の漢字の問題は読み・書き取りを合わせて 10 問出題し、大問 2 の物語文、3 の説明文の設問数はそれぞれ 10 問程度です。難解な問題はなく標準的で、読解問題だけでなく、ことばの問題、文法の問題といった知識問題も文章の中から出題し、総合的な国語の力を試すものになっています。文章の内容もそれほど難しいものではないので、スムーズに読み進めることができると思います。解答方式については、記号の選択や文章中からの書き抜きが多いですが、自分のことばを使って答える記述式の問題も出題します。

### 理科

出題傾向は昨年と同じで、物理・化学・生物・地学の 4 分野から満遍なく出題します。問題の形式としては、基礎的な知識を問うものや、図を見たりグラフを読み取ったりして答えるものが中心で、形式・難易度とも標準的です。大問は物理・化学・生物・地学の 4 分野から各 1 題出題するほか、小問集合が 1 題あります。また、例年どおり記述式の問題も出題しますので、自分の考えを文章にまとめる練習をしておきましょう。

### 社会

社会の出題傾向は例年とほぼ同じで、大きな変更はありません。難易度も基礎知識を問うものが中心となります。50 点満点で、大問が地理的分野 2、歴史的分野 2、公民的分野 1 の割合です。各分野とも、基礎知識をもとに自分で考えて、定められた字数でまとめる問題を設けています。世界地理や世界史は出題しませんが、国際社会のリーダーをめざし、日本とかかわりの深い国や国際問題などについては学習しておくことをお勧めします。時事問題も直接または間接的に出題しているので、2010 年から 2011 年にかけてのニュースや話題になったことなどについても調べておくとい良いでしょう。

## 茗溪学園中学校

### 算数

計算問題を 10 問出題しています。小数や分数の計算、工夫が必要な計算の練習をしっかりとやっておきましょう。小問集合では基本的な力を確認しますので、さまざまな分野を幅広く学習してください。図形の面積の計算や、速さや割合に関する問題に慣れておくといいでしょう。例年どおり、グラフを使って解く問題や規則性を発見する問題も出題します。自分の考えを文章で説明できるようにしておきましょう。

### 国語

漢字の読み書き、ことばや国語一般に関する常識を問う問題、文学作品の読解問題、説明的文章の読解問題を出題します。漢字は日常の使用頻度が高いものを中心に出版しています。文章題については、全体の主題や論旨にかかわる問題、部分の意味や理由を問う問題を中心に、本文を正確に読み取る力と、文中の内容を自分のことばで表現する力を見たいと考えています。

### 理科

物理では力のつり合いや電流、磁石をはじめとする、運動とエネルギーに関する内容全般を、化学では身近な物質の成り立ちや、気体の発生をはじめとする物質と変化に関する計算問題などを、生物では生物のからだのつくりや生息環境、植物の育つ条件などを、地学では天文分野と気象・地質分野の内容を、それぞれ中心に学習しておきましょう。さらに、最近の科学にまつわる話題にも関心を持っておくといいでしょう。

### 社会

地理は、図表に関連する出題を含みます。また、実際に発生している環境問題や自然災害などにも関心を持ってほしいと思っています。歴史は各時代から出題されます。教科書に登場する歴史上の人物や歴史的な出来事については、その活動や内容、影響に注目して整理するといいでしょう。教科書に漢字で書かれている字句は正確に書けるようにしておきましょう。時事問題は 2010 年度より総合的な内容の記述問題に変更しています。社会的に話題になっている事柄について、自分の考えを持っておくようにするといいでしょう。

## 麗澤中学校

### 算数

[1]と[2]は計算問題と応用問題の小問から、[3]～[6]は応用問題から成ります。計算力とともに、問題文を読み取り、論理的に考える力を問います。部分点は期待できないので、正確な答えを導くための計算力が必要です。特に基本問題の[1]でミスをしないように注意しましょう。[3]以降も小問は比較的易しいものがあるので、全体を見渡してから解答すると良いでしょう。問題によっては難易度の高い計算を要求する問いもあるので、速く確実に処理する練習も必要です。

### 国語

[1]と[2]は、論説・説明文と小説・物語文、[3]は絵画または文章の分析・要約(200字程度)です。[1]と[2]は総合問題です。時間内に長い文章を読み取る力、時間内に正しく文章を書き上げる力を問います。[3]は、絵画または文章から情報を読み取り、整理し、それを客観的に伝えるという形で出題します。なお、第3回入試は、[1]長文読解、[2]絵画または文章の分析・要約(200字程度)の構成となり、[2]の比重が5割くらいで、第1回、第2回入試より重視されます。

### 理科

[1]は小問集合(4択の融合問題)で、[2]～[5]は物理・化学・生物・地学(または環境)の分野から1題ずつ出題します。結果だけでなく、過程や理由を考えさせる問題が多くなっています。

### 社会

[1]と[2]が地理分野、[3]と[4]が歴史分野、[5]が公民分野です。地理は日本の地形・気候・産業から出題し、世界地理についても一部出題します。歴史は全時代から満遍なく出題します。公民は日本の政治全般からの出題です。例年どおり、時事問題もあります。

## 城北埼玉中学校

### 算数

全分野から偏りなく出題します。基本問題から標準レベルまでの問題によって構成されています。計算力、図形の基本的な性質（面積・体積・辺の長さの比・面積の比）の知識、文章題を数学的に理解する力を求めています。図形問題が明暗を分ける傾向にあります。演習問題を数多く解いておきましょう。グラフや作図が出題されることがあるので、定規・コンパスの使い方に慣れておきましょう。

### 国語

文章問題が2題（文学的文章と論説文が各1題）あり、ほかは漢字の読み書きです。文章がやや長く、また設問に紛らわしい選択肢があるため、短時間で文章を読み、内容をつかむことが要求されます。特別なことではなく、文章をていねいに読み、作者・筆者の訴えていることを正確に読み取る練習をしてください。

### 理科

4分野から満遍なく出題し、配点は4分野均等です。知識だけでなく、計算力・思考力を問う問題も出題します。実験に関する問題では実験で得られたデータを処理する能力や問題を理解する読解力が必要です。実験の目的と方法、その結果からわかることなどをきちんと理解する力を求めています。

### 社会

3分野ともそれぞれほぼ同じ配分で出題します。解答方式は記述と記号選択をミックスした形で、論述も出題することがあります。また、3分野にまたがる総合的な問題も出題します。地理・歴史・公民の用語は、指定する場合があります。用語を正確に、内容までよく把握して覚えましょう。地図や資料が多く使われ、選択肢では説明文や正誤文を選ぶものが多くなっています。新聞やニュースなどを通じて、日本や世界について幅広い関心を持つことを心がけてください。

## 大妻嵐山中学校

### 算数

大問は5題程度で、それぞれにつき小問2～9問、合計25問程度を出題します。最初の問題は、中学数学を学んでいくうえで不可欠な計算問題です。小数や分数を含め、計算のきまりに従って正確に答えを導き出す練習をしてください。2題目以降はさまざまな分野で必要となる基本の公式や考え方を、きちんと理解しているかどうかを見る問題です。特に、後半は文章題や規則性を見つける問題、グラフを読み取る問題、図形問題などで、思考力・応用力を問います。全体的に難問・奇問のレベルではありません。日ごろから問題文をよく読んで、解き方の道筋を正しく順序立てて考える訓練をしておいてください。

【理数アドバンスクラス・アドバンス選抜】大問は6題程度で、それぞれにつき小問2～4問、合計20問程度を出題します。大問1、2は計算問題・数の性質・場合の数などの一行問題で、大問3～6は割合・速さ・平面図形・立体図形の問題です。計算は正確な作業力と、それをやり遂げる根気強さを要求する問題です。数の性質や図形、文章題など、各分野から満遍なく出題します。一つの単元をきちんと理解し、その単元における応用問題を解く能力もつけておくといよいでしょう。単なる知識やテクニックを活用して解く問題だけでなく、整理能力や処理能力を問う問題もあります。このような能力は、問題文をしっかりと読んで問題の意味をとらえ、論理的に考えたり、正確に書き出したりするときにも重要になるので、訓練しておいてください。

### 国語

国語の知識（語句の意味・文法・ことわざ・慣用句・漢字の読み書き・同義語・対義語・四字熟語）などから出題。読解問題は文学的文章と説明的文章から出題します。文学的文章では、登場人物の心情や行動の理由、状況などの読解力を問う問題を出題します。説明的文章は、論理的な内容を出題します。やや長めの文章を書いたり、読んだりする習慣を身につけておきましょう。

【理数アドバンスクラス・アドバンス選抜】問題の構成は一般クラスと変わりありませんが、論旨のはっきりした説明文などを中心に、文のつながりや要点を探す問題を出題します。問いを組み立てていくと出題意図がわかり、結論（筆者が言いたいこと）に結び付くという出題をします。一般クラスに比べ、論理的思考力を問う問題が多くなるのが特徴です。ふだんから新聞のコラムを読んで要約したり、本を読んであらすじをまとめたりする練習をして、長い文章を短時間で読み取る力を養っておきましょう。

### 理科

小学校4年生以上の内容で、小問5問程度から成る大問4題で構成します。基本的な用語、科学的・論理的な考え方、実験の方法、実験の結果などをしっかり復習してください。基本的な知識を問います。また、グラフや表の見方も確認しておきましょう。

【理数アドバンスクラス・アドバンス選抜】物理・化学・生物・地学の各分野から出題しますが、分野ごとに別々に出題するのではなく、複数の分野にまたがる複合的な問題も出題します。小学校で学習した内容について、実験をしたり、図表・グラフなどを見たりし

て分析できる論理的な思考を問う問題になります。ふだんから科学的な考えを養っていくためにも、自然に対して関心を持ち、興味深く観察して疑問を持って調べようとする活動を心がけましょう。

## **社会**

地理・歴史・公民の各分野から、基本的知識をどの程度身につけているかを見る問題を出題します。併せて、時事的な出来事にどの程度関心を持っているかを問う問題も出題します。

【理数アドバンスクラス・アドバンス選抜】統計・グラフ・図表などを読み取るデータ処理能力や、それをもとに考える力や論述する力をどの程度持っているかを見る問題を出題します。また、歴史的な出来事や時事的な出来事について、因果関係を考えさせ、解答を導いていく問題を出題します。

## 大宮開成中学校

### 算数

小学校の算数から中学数学、高校数学に発展し、習熟していくためには、主に計算力・基礎知識・論理的思考力・図形処理能力・読解力が必要になると考えます。本校においては、そのなかの計算力・基礎知識・図形処理能力を試す問題を中心に出題します。計算問題は小問4問で計20点、応用小問①は小問5問で計25点、応用小問②は小問3問で計15点、文章問題は小問6問で計30点、図形を利用した問題は小問2問で計10点となっています。考え方や式を書かせる問題はありません。

### 国語

基礎的な国語の知識、理解を問う問題です。文章を読んで答える問題では、ことばの意味に注意しながら文章をていねいに読み解く能力、与えられた時間内に素早く正確に読み解く能力を求めています。漢字・ことばの問題は20点で計15問を出題します、説明的文章の読解は40点で、語句や文の補充、指示語の内容指摘、内容の読解、語句の意味、段落分けなどを中心とした問題です。文学的文章の読解は40点で、登場人物の心情や人物像、難しい表現の解釈、文中でのことばの意味などを出題します。文中の語句を用いた記述問題は、長いものでも35字程度です。

### 理科

物理・化学・生物・地学の各分野から満遍なく出題します。出題内容としては、例年とほとんど変わりなく、基本的な知識事項を問う問題がほとんどです。図表を正しく読み取り、それを利用して計算する問題や、科学的な事象について自分の考えを説明するような記述問題も出題します。各分野につき大問を2題ずつ出題しますので、全体で大問は8題になります。実験や観察から、値を計算させる問題もあります。

### 社会

基礎的な知識を問う問題を中心に構成されています。地理、歴史、公民・論述の三つの分野に分けて、それぞれの基本的な内容が理解され、知識として自分のものになっているかを見ていきます。地理分野は約15点、歴史分野は約20点、公民・論述分野は約15点の配点を考えています。論述問題については、新聞やニュースで取り上げられている事柄を、常識の範囲で用語にも注意しながら学習しておく必要があります。

## 春日部共栄中学校

### 算数

学習した内容をしっかり理解しているか、出題の意図を理解して考える力があるか、この2点を確認する試験です。特別な解法を必要とする問題はありません。問題は大問が6題あり、1番から3番までは「計算力」を問う問題で、面積・体積の計量問題や速さ・距離の問題など「算数」の基礎学力を確認する問題です。4番から6番までは「理解力・思考力」を問う問題です。図を利用しながら具体例を通して解法を考える問題、グラフを利用する問題、計算方法を理解して答えを求める問題が出題されます。試験時間は50分、配点は100点です。2011年度入試（全3回）の受験生の平均点は50.3点でした。

### 国語

文章を読み、理解し、考えて、表現する力を問う問題です。大問が2題出題され、1題は説明的文章、もう1題は物語的文章です。説明的文章の問題では「要点」「要旨」を問います。筆者の考えや主張を文章に沿って読み取る能力が求められます。物語的文章の問題では、場面や情景を踏まえたうえで、登場人物の言動に加え、心の動きや変化をつかむことが大切です。試験時間は50分、配点は100点です。2011年度入試（全3回）の受験生の平均点は53.4点でした。

### 理科

大問5題が出題されます。1番には最近の理科的話題を集めた一問一答形式の小問が5問あります。新聞やテレビのニュースに日ごろから関心を持ってください。2番は「運動とエネルギー」、3番は「物質と変化」、4番は「生物と環境」、そして5番は「地球と宇宙・気象」のパターンが最近の傾向です。この傾向は2012年度入試にも反映されます。問題数が多いので、正確に、かつ速く解く練習が必要です。試験時間は30分、配点は50点です。2011年度入試（全3回）の受験生の平均点は37.0点（75点満点）でした。

### 社会

大問2題のなかに地理・歴史・公民の3分野をほぼ2:2:1の割合で出題します。記述問題を増やす方向にありますが、“あなたの考えを書きなさい”という形式も出題されますので、自分の考えや意見を述べる力を養っておきましょう。地理では毎回国土院発行の地形図が出題されるのも特徴です。地形図のルールが理解されていれば解ける問題です。12月の学校説明会では地形図のルールをはじめ、基本的な問題の解答と解説を行う予定です。社会の試験時間は2012年度より30分、配点は50点です。2011年度入試（全3回）の受験生の平均点は36.3点（75点満点）でした。

## 埼玉栄中学校

### 算数

出題形式は例年どおり。基本的な計算問題は4問です。文章問題では、濃度や割合・速度・規則性の学習をしておいてください。また、面積・体積の問題もしっかり解けるようにしてください。部分点については、基本的にありません。

### 国語

文章読解は説明的文章と文学的文章（小説）の2題です。説明的文章は段落の吟味、語句の意味、接続詞などが問われます。文学的文章は心理描写の把握が中心です。慣用句にも注意しましょう。漢字の書き取りは10問出題されます。

### 理科

選択問題と記述式の併用型です。基本的な問題や実験・観察についての出題が中心です。また、身近な生活の中で見られる事象や環境問題、新聞・ニュースにも関心を持ってください。

### 社会

大問は3題で、3分野（地理、歴史、公民）からそれぞれ出題されます。資料を見ながら基本的な内容を問う出題と、時事的要素を含む出題があります。

## 栄東中学校

### 算数

入学後の数学指導の観点から「規則性」と「図形」を出題します。この単元は、合格者と不合格者の正答率に最も差が出る問題です。難関大クラス A・B・C 日程では、[1]の小問集合の出題数を増やしています。A よりも B、B よりも C と、後の日程になるほど基本重視になります。また、[2]以降の(1)も基本的な考えを問う問題になっており、比較的点数の取りやすい問題になっています。2012 年度入試も、前年度と出題方針・難易度は変わりません。

### 国語

東大クラス I・II は従来の出題方針どおり、思考力・記述力を問います。文章は論説文・説明文、小説・物語を 1 題ずつ、2 題構成です。知識分野として、漢字・ことばのきまり・ことわざ・慣用句・熟語などを本文に絡めて問います。知識の配点は例年 1 割程度ですが、2012 年度は少し増やします。難関大クラス A・B・C 日程では、漢字・知識を大問 2 題、20 点分出題します。文章題は東大クラスと同様に説明文、物語を各 1 題、計 2 題出します。文章は B・C 日程のほうが読みやすく、設問も解きやすくなります。

### 理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野から偏りなく出題します。各分野とも実験・観察や日常現象についての考察と結び付けて出題します。グラフや表を読み取る問題も出題します。東大クラスの配点は 75 点、難関大クラスの配点は 50 点です。ともに物理・化学・生物が均等で、地学が少なめになります。

### 社会

地理・歴史・公民の 3 分野からそれぞれ大問 1 題を出題します。東大クラスは 75 点満点で、配点は地理 30 点、歴史 30 点、公民 15 点です。地理ではグラフや資料の読み取りのほか日本にかかわりのある世界の国についても問います。歴史では歴史的な出来事が時系列で理解できているかを問います。公民では政治分野を問い、経済分野は出題しません。日常生活とのかかわりを理解しているかを問います。難関大クラスは 50 点満点で、地理・歴史各 20 点、公民 10 点です。基本的知識を広く問います。なお、論述問題は東大クラス入試でのみ出題します。

### その他関連情報

1. 東大クラスの定員を 2 倍の 80 名にします。
2. 難関大クラスの入試問題は、A 日程→B 日程→C 日程の順で標準問題の出題を増やします。後の日程ほど解きやすい問題になります。
3. 複数回受験で加点します。B 日程以降、2 回目以上の受験で+10 点。C 日程で 3 回目以上の受験で+20 点となります。
4. すべての入試の得点を開示します。各日程とも 4 教科の得点を郵送でお知らせします。

5. C日程は、4教科での判定の後に2教科での判定もします。

## 西武学園文理中学校

### 算数

大問数はおおむね 6 題程度で、小問は 20 問程度になります。計算問題は小問で例年 10 問程度。応用問題は大問で 3～4 題程度となっています。計算以外では、図形の面積、体積、集合、旅人算など多方面にわたって出題されます。計算は速く正確にできるように訓練し、各分野とも基本事項をしっかりとマスターしておくことが大切となります。

### 国語

大問数はおおむね 3～4 題程度。設問数は例年 25 問程度となっています。設問は多種多様で、説明文・論説文 1 題、小説・物語ないし随筆 1 題、詩歌の鑑賞問題 1 題のほか、知識問題（漢字、ことばの知識）、漢字の読み・書き、慣用句など、ことばの知識を問う問題も出題されます。全体的に読解力を問う問題が多く、文章の要旨・文脈、心情の読み取りなどの設問が多くなっています。

### 理科

大問数はおおむね 6～7 題程度で、小問は 20 問程度になります。物理・化学・生物・地学の各分野より幅広く出題されます。全体的には、実験・観察・観測を主体にして考えさせる出題が多く、丸暗記するだけでは、得点が取れないような問題になっています。ふだんから、実験・観察・観測の結果を総合的に分析して、筋道を立てて、思考していくことが大切になってきます。

### 社会

地理・歴史・公民の各分野より出題されます。おおむね、地理 14 問、歴史 14 問、公民 7 問で、合計で小問は 35 問程度になっています。歴史は、近現代史が毎年出題されているので、注意してください。公民は政治分野中心の出題です。特に憲法・国連・時事問題などが比較的多く出題されています。日ごろからニュースなどを見て、時事問題に関心を持つことが必要となります。地誌や歴史漫画、歴史上の人物の伝記などを読んでおくことも大切です。

## 獨協埼玉中学校

### 算数

方針は小学校で学習した基本事項の確認で、大問を4題出題します。1番と2番は結果のみを答える問題で、3番以降の問題では結果だけでなく、途中式、考え方を書かせます。計算順序を立てて、自分の考え方を表現できることが重要です。途中式には部分点があります。

※第3回入試は、すべて結果のみを答える問題です。

### 国語

物語文と説明文から読解2題と、漢字や文法・語句・ことわざなどの言語に関する問題を出題します。説明文は筆者の考えや主張を読み取る必要があります。物語文は主に場面の転換、心情の変化についての読解で、どちらも記号・空欄補充・抜き出し・記述などの解答方式です。文章の中でも語句や文法分野も出題します。言語に関するものは基本的な内容です。

※第3回入試は、文章題は1題で選択肢の問題が多く出題されます。

### 理科

4分野から出題します。分野を複合した問題が出題されることもあります。その内容は以下のとおりです。①グラフの読み取り、比例・反比例、規則性などを利用する計算問題の出題 ②知識問題を中心に、日常生活の中で見かける科学的現象やそれらを観察する力を問う問題など、さまざまな角度からの出題 ③実験の意味や器具・薬品の扱いなど、思考の過程を重視した出題 ④小学校で未習の内容もあるが、詳しい説明文を読んで順を追って考えることで理解できる出題。

※第3回入試は、記号問題が中心となります。

### 社会

3分野からの出題です。語句や記号で答える問題を基本として、短文で答える記述問題を各1問出題します。地理は地図・グラフ・表を読み取る力、歴史はテーマに沿って流れを理解する力、公民は時事問題を中心に公民分野全般を理解する力をそれぞれ養ってほしいと考えています。

※第3回入試は、短文で答える記述問題はありません。